

尼崎発

長尾和宏の


 まちいしゃ  
**町医者で  
行こう!!**

第79回

**「慢性期医療学会に参加して」**
**日本慢性期医療学会**

去る10月19、20日、仙台で開催された第25回日本慢性期医療学会に参加した。療養病床を中心とする日本慢性期医療協会(日慢協)が母体となり、延べ4000人が参加する大きな学会であった。日慢協の役員を拝命しているが、開業医の立場で参加したのはおそらく私だけだろう。

町医者がこの学会に参加しても、様々な学びがあった。慢性期病院で提供されている医療の現状や病院側から見た在宅医療など、別の視点から自分自身の立ち位置を眺めることができる貴重な機会である。慢性期医療の内容はいつも興味深い。在宅で提供している医療と療養病床のそれではどれくらいの違いがあるのか。療養病床が扱う病態といえば老衰など姥捨て山のイメージがあるかもしれないが、日慢協に加盟している病院は様相がかなり違うようだ。人工呼吸器、胃ろうや高カロリー栄養、24時間リハビリなど、医療依存度が高い患者さんが年々増えている。その多くが高度急性期病院から移ってくる。急性期病院と遜色ない高度医療を提供している割にはずっと低い診療報酬で頑張っておられる。毎年懇親会でその苦労話を聞いているが頭が下がる。

一方、終末期医療に関して両者の「文化の差」はどれくらいあるのだろうか。キュア志向の病院医療とケア志向の在宅医療の距離感はいかほどなのか。両者の意識の差は年々縮まっているように感じた。日慢協にとって、もはや在宅医療や在宅看取り、平穏死は当たり前になっていた。ここが急性期病院との大きな違いだ。むしろ日慢協と急性期病院との距離の方が拡大しているようにも感じた。繰り返しになるが、日慢協の多くの病院は平穏死できる場であ

る。しかし、日本呼吸器学会が『成人肺炎診療ガイドライン2017』で明示した、高齢者肺炎について積極的治療を控える選択肢を巡る学会と日慢協の見解の相違は興味深い。今回の学会では、誤嚥性肺炎の大半は治療可能というエビデンスが示された。脱水や栄養、電解質異常への介入である。このテーマは深いので、それぞれの立場からの喧々諤々の議論を期待している。

**地域包括ケア病棟と在宅医療**

2014年に新設された地域包括ケア病棟は、今年4月時点で1894病院、6万床に増えている。同病棟は、地域包括ケアシステムの推進と回復期機能病床の確保、という2つの役割を担っている。前者はサブアキュート機能であり、後者は高度急性期病院からのポストアキュート機能である。そして3番目の機能として、手術・麻酔やがん化学療法、糖尿病教育入院などの周辺機能を持つ。さらに在宅復帰支援機能を併せたものが、地域包括ケア病棟である。そういえば、介護の世界に小規模多機能施設というカテゴリーがあるが、地域医療における多機能体が地域包括ケア病棟に相当する。日本医師会が掲げるときどき入院、ほぼ在宅、というスローガンは、地域包括ケア病棟と在宅医療の密接な連携が土台となる。

全国各地で「病診連携の会」が開催されて、町医者や病院との距離が年々縮まっている。この場合の「病院」とは、多くは高度急性期病院である。しかし、開業医が在宅で診ている患者さんの多くは老衰や認知症関連であり、在宅患者さんが誤嚥性肺炎を発症した時に加療しても、経過が悪かったり家族が入院加療を希望した時どんな病院に紹介すべきだろう

か。機能分化の視点からは、当然7対1の急性期病院ではなく、20対1ないし25対1の療養病床に紹介すべきだろう。もしくは急速に増加している13対1の地域包括ケア病棟も大きな選択肢になってきた。しかし、これらの病棟機能は市民はもちろん、私のような開業医でも分かりにくい。

### 在宅療養支援病院の可能性

2008年から200床未満の病院は要件を満たせば在宅療養支援病院を名乗ることができる。この「支援」には2つの意味があるという。ひとつは在宅医療のバックベッドであり、もうひとつは「在宅医療を提供する病院」である。都市部では前者の意味合いが強いだろうが、少し田舎に行くともうひとつの意味合いが断然強くなる。特に日慢協に加入している50～100床の小さな病院は、想像以上に積極的に在宅医療を展開している。開業医に負けないくらい、いやそれ以上によく働いている。経営的な理由もあるのだろうが、昼夜を問わず病棟業務と同様に在宅にも細かく対応している。

在宅医療が国が思うほど広がらない最大の理由は、24時間365日対応にあるのだろう。一馬力の町医者にとっては超重労働であるが、それが在宅療養支援診療所の要件になっている。たとえ複数の開業医が連携しても、たとえば代理医が看取り往診した場合の保険医資格や診療報酬請求をどうするのかという煩雑な問題がある。また若い開業医にとっては夜間の対応が大きなネックになる。だから全国どこの地域でも在宅医療に取り組む医師の高齢化が指摘される。地域によっては70代、80代の医師が主力選手として活躍されている。素晴らしい赤ひげの先輩たちであるが、10年後を考えると開業医だけによって提供される在宅医療の展望が見えてこない。地域によっては在宅療養支援病院が主役になり在宅医療が提供されるところが増えるだろう。24時間対応には看護師を含めて相当なマンパワーが必要である。在宅機能と入院機能の両方を併せ持つ在宅療養支援病院には大きな可能性があると感じた。在宅医療の主役になる日が来るかもしれない。

### 介護医療院への期待

来年4月から導入される「介護医療院」に関する

シンポジウムも開催された。介護医療院は、「医療」「介護」「生活支援」に加えて「住まい」が一括して提供される新類型である。医療と介護の真の連携ができる「場」として期待されている。現行のサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)や有料老人ホームにおける医療は外づけで、介護に主導されるため正直やりにくい面がある。また外づけの医療は全身状態が悪くなると効率が悪い。医療と介護の密接な連携が地域包括ケアの条件なので、介護医療院に大いに期待している。今の時代、もはや「介護だけ」という概念では国民の安心・納得は得られない。「良質な慢性期医療」が確保されてこそ良質な介護となるだろう。それが国民のニーズだ。

今後、開業医は慢性期医療を提供する病院との連携を強化すべきだ。しかしどこにどのような機能を持つ病棟があるのか分かりにくい。医師会や行政は、開業医や市民に、急性期病床だけでなく慢性期病床や地域包括ケア病床に関する情報を力を入れて広報すべきだろう。地域医療構想という行政用語ではなく、実用的な方法で啓発してほしい。「病院機能」や「診療所機能」の啓発は地域包括ケア推進のために必須である。そして今回の学会で近い将来、「地域包括ケア病棟」と「介護医療院」の密接な連携が地域包括ケアの核になる可能性も感じた。現在、全国各地で開催されている医師会主催の地域包括ケアフォーラムは「在宅医+急性期病院+ケアマネ」という構成である。しかし在宅医が先細りという状況のなか、今後はそこに「地域包括ケア病棟+介護医療院+サ高住」という構成も入れなくてはならない。

開業医は意外にも病院のことを知らない。だから時には病院の集いに紛れこんでみるととても勉強になる。病院の医師も開業医も同じ志を持つ、まさに同志である。地域包括ケアの推進のためには、お互いの立ち位置を知り合うことも大切だ。同様に開業医が介護の世界をどれほど知っているのか。市民啓発も大切であるが、医療と介護がそれぞれの機能を相互理解することも急務。来春の診療報酬・介護報酬同時改定をそんな視点からも見ようと思う。

ながお かずひろ：1984年東京医大卒。95年、尼崎市に複数医師による年中無休の外来・在宅ミックス型診療所「長尾クリニック」を開業。近著に『薬のやめどき』『痛くない死に方』（ブックマン社）など

## 週刊 日本医事新報

No. 4881

2017/11/11

11月2週号

p25 特集：上村直実 監修

## ピロリ総除菌時代における除菌後胃癌の特徴

- 除菌後胃癌の頻度と危険因子(加藤元嗣ほか)
- 除菌後胃癌の特徴と内視鏡所見(伊藤公訓ほか)
- 除菌後胃癌早期発見のための注意点とフォローアップの方法(兒玉雅明ほか)

p1 巻頭

- プラタナス：NPPVマスクと創傷被覆材の予防使用はセットなのか？(小尾口邦彦)
- 画像診断道場～実はこうだった：腹痛、嘔気と腫瘍マーカー高値を呈す腹部腫瘍…診断は？(大石徹郎ほか)

p7 NEWS

- この人に聞きたい：認知症の早期発見・診断の促進に向けた社会的処方箋とは？(近藤尚己)
- まとめてみました：これだけは知っておきたい！「DPC制度」
- 医療経済実態調査—診療所は横ばい、病院は給与費上昇で増収減益
- 長尾和宏の町医者で行こう!!「慢性期医療学会に参加して」

p45 学術

- 小売業の現場における、高齢者あるいは認知症が疑われる高齢者のトラブル実態(寺田整司ほか)
- 漢方スッキリ方程式(加藤土郎)
- 他科への手紙：病理診断科→放射線科(市原 真)
- 差分解説：身体活動向上がCOPD治療の新しい管理目標 他6件

p56 質疑応答

- プロからプロへ：CKDに対する吸着炭の使用法 他2件
- 臨床一般・法律・雑件：PD-L1はどのようなタイミングで測定すればよいか？/中大脳動脈狭窄の外科的血行再建術の適応および手技は？/高血圧症患者は加圧トレーニングを行ってよいか？

p68 エッセイ・読み物・各種情報

- 小説「群星光芒」 ● エッセイ ● ええ加減でいきまっせ！
- 私の一冊(住谷 哲) ● 漫画「がんばれ! 猫山先生」

p77 医師求人/医院開業物件/人材紹介/求縁情報

